

プログラムの概要

学校教育専攻は、次の3つのコースで構成されています。学校教育における教育の理念、カリキュラムの開発と評価、教授・学習の原理、児童・生徒の成長・発達、人格と適応などについて学習・研究し、初等・中等教育を中心とした教育諸科学の深い学識にもとづいて教育実践・学校経営に取り組む教員を育成する【教育科学コース】。特別支援教育や障害科学に関する高度な専門的知識を修得するとともに教育実践研究を蓄積し、障害状況にある児童生徒の変化・成長を助け、促すことができる実践的な指導力を有する教員を育成する【特別支援教育コース】。そして、各専門分野の知識・技能を深化させるとともに、更に隣接諸分野の学習により、幅広い視野や柔軟で学際的な研究力・創造力を養うことで、教科に強い高度な実践的指導力と専門的力量を有する教員を育成する【教科教育コース】です。

修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）

学校教育専攻では、以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得に加え、研究科の目的に応じた学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査（最終試験）で行います。

- (A) 教育関係諸科学についての幅広い知識や専門分野についての高度な知識を有し、多様な場面において理論に裏打ちされた適切な指導ができる。
- (B) 教育や教科に関する諸課題を科学的に考察し、その解決に向けて理論と実践に基づいた柔軟で自律的な取り組みができる。
- (C) 教育者としての使命感と責任感をもち、豊かな人間性と幅広い視野で社会に貢献できる。

履修条件（アドミッション・ポリシー）

学校教育専攻では、以下のような人の受け入れを希望しています。

- ・ 学校教育や教職についての基礎理論・知識を修得し、教科と研究に関する基礎的能力を持つ人
- ・ 教科や発達・教育課程に関する知識・技能を持ち、教育実践を通して児童生徒の実態に合わせた教材分析・開発力の向上を目指そうとする人
- ・ 教育経験を省察し、より高度な専門的力量を育み、教職についてより深く探求しようとする人

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）

学修・教育目標を達成するために、カリキュラムは大きく【専攻共通科目】と【コース専門科目】の2つに分けられます。具体的には、次ページのカリキュラムツリーに示すような授業科目が編成されています。

【専攻共通科目】は、共通基礎科目と教職実践科目で構成されています。共通基礎科目では、特に児童生徒の発達段階やカウンセリングなどに関する理論についての専門的知識を学びます。教職実践科目は、各自が学ぶ専門的内容と教育実践を結び付け実際に活用することを目的とし、児童生徒の実態や課題を把握した上で教育実践を計画・実施、振り返りを行います。

【コース専門科目】は、コース基礎科目、コース選択科目、そして特別研究で構成されています。例えば、教科に強い高度な実践的指導力と専門的力量を有する教員を育成する教科教育コースでは、コース基礎科目として、教授・学習過程論、授業研究に加え、教科と教職を架橋する科目（教材開発論）を開設。専門的知識を活かし実態に応じて指導内容を工夫するなど、適切な授業を構成することで新たな学びの展開力を培います。また、学生は自らが専門とする教科についての上記3科目に加え、近接教科の教授論、授業研究、又は教材開発論のひとつを履修することで、幅広い視野の育成や従来とらわれない教材開発など、柔軟で学際的な研究力・創造力の育成を図ります。コース選択科目では、各自が学ぶ分野・領域における専門科目を履修し、専門性をより一層高めます。特別研究では、教職実践研究・インターンシップを土台とし、各自が推進してきた専門領域の研究成果を整理・とりまとめます。

学校教育専攻カリキュラムツリー

2 年次

1 年次

学修・教育目標

専攻共通科目		修士論文 (課題研究)	
共通基礎科目	児童生徒の発達段階やカウンセリングに関する理論についての専門知識を学びます	現代学校教育論演習 特別支援教育概論 学校教育の心理学	(A) 教育関係諸科学についての幅広い知識や専門分野についての高度な知識を有し、多様な場面において理論に裏打ちされた適切な指導ができる
教職実践科目	専門的知識を教育実践に結びつけ、児童生徒の実態や課題を把握し実際に活用します	教職実践研究 (教育実践報告書) インターンシップ I a インターンシップ I b	(B) 教育や教科に関する諸課題を科学的に考察し、その解決に向けて理論と実践に基づいた柔軟で自律的な取り組みができる
コース基礎科目	専門的知識を活かして適切な授業を構成することで、新たな学びの展開力を培います	■教育科学コース 教育学特論 教育心理学特論 ■教科教育コース 各教科の教授・学習過程論 授業研究 初等・中等教材開発論	(C) 教育者としての使命感と責任感をもち、豊かな人間性と幅広い視野で社会に貢献できる
コース選択科目	領域の専門科目を履修することにより専門性をより一層高めるとともに、教育や教科の諸課題に自律的に取り組みます	■教育科学コース 教育哲学特論、福祉教育特論 道徳教育特論、学校心理学基礎論 発達心理学基礎論などの各領域の専門科目 ■教科教育コース 各教科の教育特論 日本語特論 日本史特論、幾何学特論 物理学特論、音楽学特論 美術史特論、運動学特論 工ネルギー変換工学特論 生活経営学特論 英米文学特論などの各領域の専門科目	
特別研究	研究の総仕上げを行い成果を取りとめます	■特別支援教育コース 障害児教育方法学特論 知的障害児心理学特論などの専門科目	
Advanced Learning+1		各コースにおける特別研究	
		Academic Reading, Academic Writing, Globalization and Society, Intercultural Education, Methodologies of English Dissertation Writing など	

教育学研究科

プログラムの概要

学校現場が現に直面している問題から実践研究の課題を抽出し、理論と実践の架橋・往還・融合を通して学校現場と共に組織的に課題を解決しようとする中で、多様な人々と協働しながら対応・解決できる力量を備えた、高度な教育専門職としての初等中等教育教員を養成します。特に、現職院生は、修了後、研究主任や教務主任など学校改革の中核として働く教員や、将来地域教育界のリーダーや管理職として働く教員を育成する。学卒院生は、採用後、即戦力となるだけでなく、同僚と協働し学校改革や授業改善を牽引できる新採教員を育成します。

また、学校改革・授業改善のリーダーを育成するために、以下の3点の資質(以下、3つの力)を中心に育成します。

【学校改革力】

学校全体に関わる課題を適切に把握し、その課題を解決する力量です。ミドルリーダーとなるためには、学校運営を理解すると共に、学校改革を推進する実行力が求められます。また、課題解決には、教職員集団や児童生徒集団を適切に組織する力量や、学校内外と協働して課題解決に取り組む力量が必要になります。

【授業力】

授業における基礎的な技能を修得するだけでなく、すべての学習者に深い学びを保障する力量です。ミドルリーダーは、自らが授業を行うだけでなく、校内や地域の他の教員の授業力向上の支援をすることが求められます。そこで、授業研究を適切に組織し、それらをリードできる力量も必要となります。

【個への対応力】

対象の児童・生徒一人一人を十分に理解し、それを教育活動に生かすことの出来る力量です。特に、個に応じる特別支援教育の考え方を学習指導や学級・学校経営に生かすことが不可欠になります。これらは、「学校改革力」、「授業力」のどちらにも必要となる考え方であり、それらの力を下支えするものです。

修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

教育実践高度化専攻では、以下の学修・教育目標に掲げた能力を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学位を授与します。修了の認定は、所定の単位修得に加え、研究科の目的に応じて修学成果を審査します。

- (A) 教育関係諸科学についての幅広い知識を有し、自らの教育実践に生かすことができる。
- (B) 学校現場に関する教育的課題を適切に捉え、その解決に向けて理論と実践に基づいた協働的取り組みができる。
- (C) 教育者としての使命感と責任感をもち、豊かな人間性と幅広い視野で社会に貢献できる。

履修条件 (アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

- ・地域や学校における指導的役割を果たし得る教員等として不可欠な確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクール・リーダーになることを志向する現職教員
- ・学部段階での資質能力を修得した者(教員免許保有者)で、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る教員志望者

2. 入学者選抜の基本方針

学校教育の実際的課題に関する問題意識と、協働によって問題解決にあたる基礎的能力・態度について評価します。具体的には、提出された教育実践の概要と実践課題概要に基づき、口述試験(現職教員以外は小論文も)を行い、ふさわしい人を選抜します。

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

教育実践高度化専攻では、【共通科目】、【分野別選択科目】、学校現場での長期実習としての【教育実践プロジェクト】、理論と実践を往還する省察としての【リフレクション】を通して、学校課題を見極め協働して解決する「学校改革力」、深い学びを追究し仲間と授業研究を組織する「授業力」、特別支援教育の考え方を学習指導や学級経営に生かす「個への対応力」の三つの力を育成します。

三つの力を備えた総合的な教育力を養うために、現職院生と学卒院生が同じコースで学び、異世代の交流をします。現職院生は、三つの力のうち、特に強みとなる分野を獲得させるために、各自の課題に応じた分野を中心とした履修をします。学卒院生は、広い視野に立って教育活動を俯瞰し、同僚と協働しながら学校改革や授業改善を牽引できる教員となるように、三つの力を総合的に履修します。

教育実践高度化専攻カリキュラムツリー

		1年次	2年次	学修・教育目標
共通科目	現代的な教育課題とその課題に直結する教育理論と実践的なアプローチを網羅的に学びます。	(1)教育課程の編成・実施に関する領域 (2)教科等の実践的な指導方法に関する領域 (3)生徒指導、教育相談に関する領域 (4)学級経営、学校経営に関する領域 (5)学校教育と教員の在り方に関する領域		(A)教育関係諸科学についての幅広い知識を有し、自らの教育実践に生かすことができる。
分野別選択科目	大学院生の関心に応じて受講します。現職院生は個人の関心に応じて、3つの科目群（学校改革、授業改善、個に応じた支援）から、1つの科目群を選択し、その群を中心に履修します。学卒院生は、授業力、学級経営力、個への対応力の基礎をバランスよく学びます。	(1)学校改革に関する科目群 ①集団作り論、②学校評価の開発実践、③栃木の学校改革 ④学校と地域の連携に関する実践と課題、⑤学校における「管理」実践とその課題 (2)授業改善に関する科目群 ①授業実践基礎、②授業改善とテクノロジー、③言語活動を軸にした教育内容・方法論、④国語授業デザイン論、⑤算数・数学授業デザイン論、⑥社会科授業デザイン論、⑦理科授業デザイン論、⑧英語授業デザイン論、⑨道徳授業デザイン論学校改革に関する科目群 (3)個に応じた支援に関する科目群 ①授業における個のとらえ方と対応、②特別支援教育コーディネーターの役割と課題、③特別な支援が必要な子どもへの理解と対応、④障害の重い子どもへの教育の在り方		(B)学校現場に関する教育的課題を適切に捉え、その解決に向けて理論と実践に基づいた協働的取り組みができる。
リフレクシヨ	大学で学んだ教育理論と学校現場での活動を繋ぐため、年間を通して行います。現場での活動を省察し、次の活動に生かすことを繰り返し、その成果を実践報告書としてまとめます。	・入学前の教育実践経験の省察 ・教育実践プロジェクト及長期インターンシップに関する省察 課題設定 計画立案 分析・改善 報告書の作成・成果発表		(C)教育者としての使命感と責任感を持ち、豊かな人間性と幅広い視野で社会に貢献できる。
実習科目	大学院生と大学教員が1つのチームとなり、学校のテーマを自らの研究課題として取り上げ、学校現場と連携しながら課題解決をします。	現職院生 連携協力校での教育実践プロジェクト 学卒院生 附属学校での長期インターンシップ 連携協力校での教育実践プロジェクト		